

## 令和3年度 第2回 教育課程編成委員会 分科会

1、日時：令和3年8月27日（土） 14時45分～16時15分

2、場所：出雲医療看護専門学校 101教室（リモート開催） 進行（落合教務副部長） 書記（鎌田）

<https://zoom.us/j/9697885777?pwd=a3RRROGZxK3lYRllaSWhiZkNtZXZadz09>

ミーティングID: 969 788 5777 パスコード: 894234

3、参加者：

神田副学校長  松井事務局次長  鈴木教務副部長

落合教務副部長  内井事務副部長  堀内学科長 加藤学科長

中山副学科長  鎌田副学科長

田中真美様（島根大学医学部附属病院 副病院長・看護部長）

太田真英様（一般社団法人 島根県理学療法士会 会長）

福田淳様（サインポスト合同会社 デイサービスサイン マネージャー）

福田勇司様（一般社団法人 島根県臨床工学技士会 会長）

明穂一広様（島根大学医学部附属病院 MEセンター 臨床工学技士長）

西本祥久様（一般社団法人 山陰言語聴覚士協会 島根県言語聴覚士会 副会長）

欠席者：橋本学校長、太田副学科長・原看護協会理事・藤江言語聴覚士

4、内容：

### ・開会挨拶（神田副学校長）

新型コロナウイルス感染症が島根県の感染状況も拡大している中で、臨地実習にご協力をいただいていることへのお礼、臨床現場と学校をつなぐ連携の強化

### ・委員紹介（上記参加者6名・本校教職員9名）計15名

#### 1) 学校の現況報告（鈴木教務副部長） スライド資料参照

昨年度（2020）の状況

- ・退学率；2.6% （一昨年度1.1%）退学率3%未満は維持できている。
- ・国家試験合格率：一昨年度より昨年度は合格率が下がっている。新型コロナウイルス感染症に関連した実習の遅れによる国試対策不足も一因として考えられる。
- ・就職率：就職希望者に対して一昨年・昨年共に100%  
県内就職率50～66%（一昨年度より増加傾向）
- ・進学率：昨年度は看護学科で大学進学。  
本年度の希望者4名。キャリアアップを図る学生が増加傾向。
- ・入学者：一昨年度より増加。新学科  
県内への進学志向の高まりも考えられる。
- ・臨床実習：規定実習時間（最終学年）NS21週、PT16週、CE6週、ST8週
- ・授業について  
分散登校にて学科により授業に遅れが生じている。  
学内での学生同士のコミュニケーション機会の減少…臨地実習への影響を懸念

## 新カリキュラムについて

### 2) 学科より現況報告 (パワーポイント資料参照)

#### 看護学科 (堀内学科長)

- ・3年生の実習は2領域を残すのみ
- ・教育カリキュラム改正…地域医療・地域包括に関する分野の追加、多職種連携を盛り込む
- ・実習状況…実習中止時の対応 (病院振り替え・学内実習・自宅での課題取り組み)
- ・就職後の新人教育…就職先への情報提供・技術経験録の活用
- ・多職種連携…学内での連携授業 (PT・CE・ST) の実施・継続
- ・国試対策…必修問題を中心に過去問題に取り組む
- ・実習・就職試験・国試対策と多重課題に対してフォロー
- ・今後の課題…学内で学べること・病院でなければ学べないことを明確化し、効果的な学習への取り組みを行う

#### 理学療法士学科 (鈴木学科長)

- ・地域理学療法実習…学内実習で対応
- ・第2種 ME 検定試験 (2年生希望者) 受験予定
- ・待遇を含めた評価技能レベルの低下あり (昨年度学内実施したことが影響している可能性もある)
- ・1・2年次に思考プロセス・コミュニケーション能力の強化を図る
- ・国試対策…基礎を固める。基礎科目の復習 (1・2年次から強化する)。
- ・今後の課題…1年次の解剖生理・運動学の理解、学習習慣の確立、コミュニケーション能力の強化、実習中のリスク管理 (体験が少ないとリスク管理に困ることが多い)

#### 臨床工学技士学科 (加藤学科長)

- ・3年生臨床実習は5.6月に終了 (180時間の行程)
- ・実習中の問題点: コミュニケーションについて・返答の仕方・態度
- ・海外研修補講プログラム終了 (姉妹校と協力)
- ・第2種 ME 技術実力検定試験 (42名) 受験・1年生病院見学 (2月2日間)
- ・入学時から社会人教育に関する指導の強化が必要
- ・国試対策…グループワークから個別指導にシフトしていく。  
(2年次から) 国試ノートまとめによる意識付け
- ・今後の課題…精神的に不安定な学生が増加  
キャリア教育の実施 (社会人基礎力)

言語聴覚士学科 (鈴木学科長)

- ・7-9月 3年生臨床実習 (学内2週間・学外6週間)、1-2月 2年生臨床実習 (学外4週間)
- ・検査を実施する機会に学生間で差がある
- ・国試…過去問題への取り組み、個別に弱点克服学習、基礎科目の復習

3) 意見交換

「新型コロナウイルスの影響下における教育課題と今後の改善点」

臨地・臨床実習に関して、就職後の新人教育について、多職種連携について

田中様)

社会人基礎力についてはチェックリストを活用してできるようにしている。社会人基礎力を身につけることは学校でも同様に難しい状況だと考えている。専門卒だけでなく大卒や様々な状況で入職されるが、入職されてからの違いは感じていない。やる気の問題、職業意識の考え方の違いによると思う。倫理的な配慮については、入職時研修で定期的に入れていく。入院患者の集約した声をグループワークに活用し、対応について考えたことで入職時の時点で対応を学ぶ機会になっていると思う。密にならないように分散して4月、6月末に技術演習をしているが、コロナ禍の影響は現時点では考えられない。

福田淳様)

コロナ禍の影響について…

実習の減少が直接影響しているのか感覚的にどのように感じているのか？

事業の継続が変更されていると思うが新たにできる事業と辞めていかなければいけない事業の仕分けができていますか？

加藤学科長)

CEに関しては、医療器械を学校で全て補うことはできないため、生体から機器操作へというところを臨床実習でみている学生とみていない学生の差は生じています。

松井教務部長)

事業の仕分けについては、コロナ禍であっても基本的には入学式・卒業式・戴帽式・卒業課題研究発表会については学校の行事として行っている。引き続き、コロナ対策も踏まえ内容を変更しながら行っていく。入学生の連携教育について、感染対策を取りながら実施はできたが、今後も感染症の状況に応じて対応していく。

地域でのボランティア・地域貢献についても同様に状況に合わせて取り組んでいきたいと考える。

福田淳様)

コロナ禍で目指す学生像のずれが生じていると思うが、そこは認知しているか？

松井教務部長)

建学の理念である国際教育については海外研修に関して変更などしている。到達目標・学習成果としては到達点は低くなるが、リカレント教育に力を入れていきたいと考える。

福田淳様)

難しくなっている教育・運営がある中で補おうとしても100%は補えない。よそでどのように補うのか、仕分けをどのように行っていくのかが、学校教育という点でどのようになっているのか、実習指導の際に焦点を当てにくくなっているため質問をした。

松井教務部長)

オンライン授業が3分の1となっており、コミュニケーション能力の低下が生じていることは確かである。しかし、オンラインにより学生の質問数は多くなっているため、いいところを活用しながら今後の教育につなげていきたい。

福田淳様)

実習先へ今の学生の状況、目線をどこに合わせるのかを伝えることが必要である。コミュニケーションなのか、知識・技術について焦点を当てるのか難しい状況があった。

神田副学校長)

昨年度はほとんど臨地に出ていなかったが、看護学科の事例だとシャドーイングにより職業理解につながり、モチベーションが上がる学生が多かったこともある。本年度は、コミュニケーションと実技関連において能力が不足することも予測される。各学科で実習内容の組み立て、直しを行い、そのことを実習先に説明することが不足していたと考えられる。臨床側と学校側の考えのマッチングが必要であり、カリキュラムに沿いながらすり合わせを十分に行っていく。地域包括システム・医療構想もあわせながらご意見をいただきながら変更していきたい。

鈴木教務副部長)

認知面や技術面については入職後も強化できるが、セラピストとしての在り方など学校としての教育不足も感じている。

太田様)

指定規則が変わり、これからの実習は情緒面が少なり、技術面が強化されるのではないかと感じている。学内教育をやっているため、やるべきことをやることはできているが、アクシデントに弱い。イレギュラー対応ができないことが多いため、本年度の新人には指導している。ペーパーペイシエントが悪いとは思わないが就職してからイレギュラーな対応について指導できればと思っている。

西本様)

はっきりしているのは経験が少ないこと。知識は学校でやってもらっているが少ない期間の中でいろんな経験をどれだけできるかだと考えている。コロナで経験ができないことをどのように補うかは今後も課題だが、職業人としての考えを実習だけでやるのは困難。実習後のサポートを学校でもしてもらいたい。

落合教務副部長)

実習後の振り返りやイレギュラーなことがあったことの振り返りは学校で行っている。今後も継続して行っていく。

福田勇司様)

臨床工学技士の立場で言えば、今は災害という認識でいるため復興には時間がかかると思っている。率先力については別問題だと考えており、実習を受ける場・学生を受け入れる場

としては、情報共有の場を持つ機会を増やすことでクリアできるのではないか。  
施設によって受け入れ態勢が異なるため、学校のニーズにこたえるには限界がある。ある程度、学校側が求める事を絞ってもらいたい。  
復興には時間がかかるので今までと同様のことができるわけではなく、今できることをお互いに理解しあうことが必要。もっと具体的に伝えてもらうほうが前進するのではないか。社会人として育てる共通目的をもって一緒に育てていけるとよい。

秋穂様)

今までだったら仕方ないと思っていたことが、コロナ禍により病院もピリピリしていることで学生の本来の姿がより見えるようになってきているのではないかと思う。コロナ禍だからこそ少ない期間で自分たちの実習をより良いものにしていくために態度面などの意識付けが必要。

コロナ禍の今の現状を伝え、その中で実習を行っているという事を学生に感じてもらいたい。

#### 4) 総括（鈴木教務副部長）

コロナは災害という認識を持ちつつも、ピンチはチャンスととらえ、学校教育においても新しいものを生み出せるようにしていきたい。